

一般演題口演 | 一般演題：小児・周産期

2024年7月19日(金) 13:10～14:05 第15会場 (鹿児島県立図書館 2階 第1研修室)

[O42] 小児・周産期

座長:石井 亘(京都第二赤十字病院 救命救急センター 救急科)、藤田 基(山口大学医学部附属病院 先進救急医療センター)

13:17～13:24

[O42-02] 小児癲癇重積発作におけるブコラム投与症例を経験して

*大城 卓也¹、松永 伸一¹、内田 宗暁¹ (1. 福岡市消防局)

【目的】

総務省消防庁から令和4年7月に「学校等における口腔用液(ブコラム)の投与について(情報提供)」が発出された。当局では、ブコラム投与に関する経験症例が少なく、今回小児痙攣重積発作に対するブコラム投与症例を経験したため、同様症例の対策の一助とすることを目的とし報告する。

【症例】

「3歳女児、けいれん中、呼びかけに反応なし、呼吸あり、癲癇既往あり。」の通報。車内収容時、JCS3、呼吸42、脈拍164、SpO2値84%、痙攣なし、左共同偏視を確認した。医療機関へ搬送中、同乗の父親からブコラムの処方があることを聴取。搬送中の車中から医師に投与について確認を行うと、父親に投与してもらうよう指導があり、投与してもらったところ、SpO2値の改善と眼位両側正中位を認めた。

【結語】

救急隊が、ブコラムの処方について早期に確認を行うことが出来れば、より早い投与と症状の改善が見込める。

ブコラム投与は非常に有用であり、当薬剤について救急隊への教育を継続的に行っていくとともに、低血糖傷病者に対するバクスマー投与においても、今後メディカルコントロール体制の中で事例を蓄積していく必要がある。